



## ○ ハラスメント

「〇〇ハラ」ということばがいろいろと作られていますね。私は数年前に YIC グループの各学校をまわって「ハラスメント防止講座」の講師としてお話をした経験があります。なぜ私にその講師の依頼があったのか、その根拠は今だ不明のままですが、受けたからにはどんな内容にしようかと頭を悩ませました。この内容のことを専門に研究しているわけでもない私が、検索して調べたことをそのまましゃべっても伝わらないなと思いました。これは自分が経験したことだからさぐるしかないなと思いました。

行政（教育委員会など）に勤めていたころ、私は障害（知的、情緒、肢体不自由、聴覚、視覚、病弱など）がある子どもたちの就学支援担当でもありました。その時に発見（？）したことがあります。それは、「障害がある人となない人というふうに分ける境界線はない。」ということです。「度合いの違いだけ」ということです。私にも学習障害と言われるようなものがあります。小学校の時のそろばんの授業には全くついていけませんでした。まさに“置いてけぼり”という感覚でした。現在の私のパソコン操作に通じているかもしれません。

ハラスメントも似たような解釈が必要ではないかと思います。ハラスメントをする人としらない人の境界線もないととらえたほうが良いと思います。言い換えれば、「私はいかなるハラスメントもしない。」ではなく、「私もしているかもしれない。」と意識するということです。ハラスメントということばを使うよりも「嫌な思いをさせている（させた）かもしれない。」

この考え方が大切ではないでしょうか。ただあまりに身構えすぎると動きが取れなくなりますが、意識することは常にあったほうがよいと思います。誰にも何にも全く迷惑をかけないで生きていける人間（動物も植物も）なんて存在しないはずですよ。だからこそときどき振り返ることが大切だと思います。

左は検索した紫陽花の映像です。

花言葉にはネガティブ・ポジティブ両方のものがあるそうです



## ○ 自校自賛

20日、KC校で行ったOCの内容はアジの三枚おろし、そしてそのフライでした。

魚をさばくことの経験の有無はさまざまでしたが、みんな“できた”ことへの満足感も味わっていたようです。手伝ってくれた学生は調理師科1年コースのMさんとMさんです。一人は以前描きましたので今回の似顔絵はもう一人のMさんです。

写真はイメージです



今年はYC校の玄関前花壇にヒョウタン（瓢箪）を植えてみました。上手く育つとたくさんぶら下がる千成りびょうたんです。兵丹と表現することもあるようです。次は検索して見つけた文章です。

「千成りびょうたん（せんなりびょうたん）」は、豊臣秀吉が戦の際に掲げた「馬印（合図の旗印）」として有名な縁起物です。戦に勝った際に瓢箪の数を一つずつ増やしたという逸話があり、「無病（六瓢）息災」や「立身出世」「商売繁盛」の象徴として親しまれています。

